

大仏殿方広寺は、後陽成院御宇天正六年、豊臣秀吉公の御建立なり。本尊は廬舎那仏の坐像、御丈六丈三尺。仏殿

は西向にして、東西廿七間南北は四十五間なり。楼門には金剛力士の大像を置、長は壹丈四尺なり。門の内には高麗犬あり、金色にして長七尺。「これは豊国のやしろにありしといふ」廻廊は南北百廿間東西百間なり。堂前に建る石灯籠には列国諸侯の名を刻む、仏殿の敷石又正面石垣の大石には国々出所の名或は諸侯の紋所等あり、廻廊の外には桜紅葉を交へて植ゑたり。慶長七年十二月四日には仏殿回祿す、同十五年右大臣秀頼公ことかくく再営ある。寛文二年本尊銅像を改て木像とし給ふ。太閤秀吉公の石塔婆は仏殿の南にあり、豊国崩れて後これを営しといふ。塔前の石灯籠には慶長十年九月とあり。

撞鐘堂は南廻廊の外にあり、四間四方にして柱の数は十二本なり。鐘の高さ壹丈四尺、指わたしは九尺二寸、厚さ壹尺。